



野生生物共生センターの取組

福島県野生生物共生センター

野生生物共生センターは、昭和57年に安達郡大玉村の「ふくしま県民の森」内に設置され、ケガや病気の野生動物を治療し、野生に復帰させる活動を行っていた「鳥獣保護センター」に、野生動物の調査研究、保護管理、環境学習等の新たな機能を追加し、平成28年にオープンした施設です。

野生生物の調査研究

環境創造センター研究部と協力して放射性核種濃度の検査や食性・行動の測定等、野生動物への放射線の影響に関する研究を行っています。

<野生生物の食性・行動調査>

麻酔をかけたツキノワグマにGPS発信器を装着しています。
また、捕獲用罠の設置、管理、捕獲時の麻酔対応を行っています。



<野生生物放射性核種調査>



野生動物の救護や保護管理活動を通して得られた個体の筋肉等采取し、放射性核種の挙動解明に向けたデータの蓄積と分析を行っています。

野生生物の保護管理

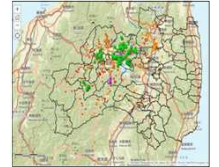
野生動物に由来する人の生活への影響に対して対処、調査、研究を行っています。

<有害獣に関する調査・分析>

有害獣対策の専門家と共に、出没・被害状況調査を行っています。また、市町村等から出没・被害データを収集・整理し地図上に表示、対策会議等で提示しています。



ツキノワグマの痕跡調査中



有害獣情報のマップ化

<野生動物由来感染症の調査・分析>

ヒトと動物の共通感染症の調査

- マダニ媒介性疾病調査
- 薬剤耐性菌保有状況調査
- 野生動物サルモネラ保有状況調査



死亡野鳥の鳥インフルエンザ検査

環境教育・普及啓発

生物多様性や野生動物の生態についての理解を深めてもらうため、生物多様性についてまとめた展示や動物の剥製、復帰訓練中の動物を観察できる展示があります。

また、小学生親子を対象に、昆虫標本作りや自然観察会などの環境学習会も行っています。



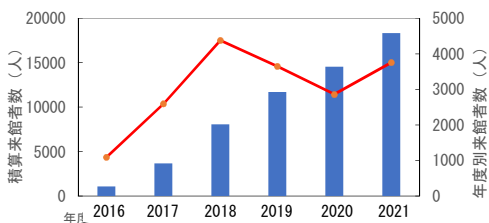
館内展示の様子



環境学習会「昆虫標本作ろう」



野生生物共生センターイメージキャラクター あだぼん



野生生物共生センター来館者数 (2016~2021)

野生動物の救護・野生復帰

交通事故など人の活動の影響により、野生動物がケガ等を負う事例が年間約250件発生しています。そういった野生動物の治療・リハビリを行い野生に帰す活動を行っています。



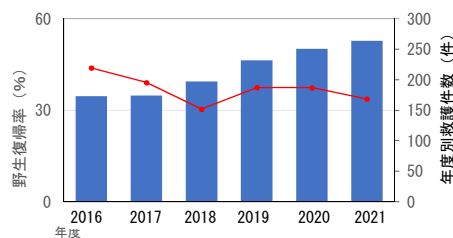
治療の様子

野生復帰の様子はこちらから



ムササビ

キツネ



野生生物共生センターの傷病鳥獣の野生復帰率 (2016~2021)

ケガをした野生動物の野生復帰率は約30%です。
また、年々救護件数は増加傾向です。